

【配点】 1 各1点×10 2・3・5 3 各2点×11 4 3・5 2 各6点×2 その他 各4点×14

1

1 収 集
2 純 白
3 精 進
4 垂 直
5 深 層

2

1 S
2 K
3 K
4 K
5 K
6 T
6 清 算
7 宇 宙
8 担 任
9 統 べ る
10 至 る
(「総」も可) (「到」も可)

3

1 おそらく
2 て も
3 な い
4 よ う な
(「おおかた」も可)

4

1 A エ
B ウ
C ア
2 イ
(完答)

3 ジ ガ バ チ は 円
し、記 憶 す る こ と が で き る
い 形 を 他 の 形 と 区 別

5

4 動 け な い
(同意可)

1 体 ご い く
(完答)

2 物 心 つ い た 頃 か ら 家 の ま わ り に 森
や 川 な どの 自 然 が あ っ て、 学 校 か
ら 帰 れ ば す ぐ に 遊 べ る よ う な 環 境
で 育 っ た 場 合。
(同意可)

6

3 お ぼ っ か な い
4 ウ
5 気 に 入 っ た

6 自 然 保 護
7 ア

1 お と かり
2 イ
3 エ
4 ち い さ な 亀 裂
(完答)

5 日 曜 日 に な
6 A オ
B エ
C ウ
D ア
(完答)

① (漢字の書き取り)

今回の漢字はすべて、ベーシックのトレーニングで出題されているものである。復習テストで正解していたのに間違えたという場合は、時間をおいて見直しに取り組むようにするといいたいだろう。漢字を覚えるときにその言葉が表す様子や使われる状況をイメージすると定着した知識となりやすい。音だけで考えず、字義や文脈を確認して答える習慣をつけてほしい。

② (敬語)

尊敬語は目上の相手側、謙譲語は自分側の動作や所有物に対して使うものであるということを大前提として考える。そのうえで「おろになる／＼れる・／＼られる」や「おろする」といった形や、いわゆる「特別表現」で表されることも覚えておこう。また、丁寧語は「です／ます／ございます」で表されることももちろん覚えておきたい。

③ (副詞)

陳述の副詞のセットとなる言葉を補う問いである。1は「おそらくだろう」である。2は「たとえ(たとい)／＼ても(とも)」である。3は「けつして／＼ない」である。4は「まるで／＼ようだ」である。4は「まるで／＼とし」という形もあるが、「五十音順」という設問の指定に合わないのでここでは不可である。

④

1 Aは「ハチは：できません」と「人間はそれができるのです」をつなぐため「ところが」が入る。Bは「肉食性の鳥」の例として「タカやハヤブサ」をあげているため「たとえば」が入る。Cは直前の「草食獣」と「肉食獣」の目についての説明を直後でまとめているため「つまり」が入る。

2 「ふさわしくないもの」を選ぶ。傍線部を含む段落の前後で「目がよく見える」ことの利点が述べられている。文章冒頭で「ハチは：区別ができません」とあり、「ジガバチ」だけこの特徴を持たないとは書かれていない。

3 「三つの実験」、およびその結果分かったことは最終段落にまとめられていたのでそこに注目する。実験から分かる「円形を記憶できること」、そして「記憶した」円形と他の形(三角形)を区別できること」を答えに組み込む。

4 二つ目の空らんの直後、「ちようど人間が：麻酔をかけるようにしておく」が大きな手がかりとなるだろう。設問の指定をふまえつつ、手術において麻酔は何のために使われるかを考える。

⑤

1 文章全体を通して、現在行われている「自然教育のあり方」に欠けている視点を示している。指定された範囲において「大人」、「子ども」の双方に触れている部分をさがす。

2 「自然になじむ」ことが容易な場合を答えることに注意しよう。傍線部は直前の「大都市の：接するのは特別な時だけ」の場合の話をしている。これと対比的な場合(人)が同段落で述べられているので、この部分を用いればよい。

3 「おぼつかない」とはこの場合「物事がうまく進むかどうか疑わしい」という意味である。文章の中で見かけた言葉は積極的に意味調べを進め、意味、用法を確認するべきである。

4 Aは「解説される」ことで自分から「自然をみる」ことができなくなる、という流れなので「自発的」が入る。Bは「自然教育」を受ける側のことを考えずに、「自然教育」をする側の思い込みが優先されていることから「一方的」が入る。Cは「実感がともなわない」と、どのような「行動」ができないのかを考える。Cは一見他の選択肢も入りそうだが、落ち着いて他の空らんを確実に埋めていけば答えにたどりつけるだろう。

5 傍線部で「子どもが：行動をとるか」と問いかけているので、これに対する答えが後続部分にあると見当をつける。直後の「自然観察会の指導員」、「動植物の研究者」は自然に興味を持つ人間として挙げられており、この人たちに向けて「子どものころ」を思い出し、傍線部の問いかけについて考えてほしいという形で説明が続いている。さらにその後「：大人の指示なんか聞かないだろう」と筆者の考えが述べられており、この部分が「自然に興味を持った子どもとの行動」の答えとなる。6 筆者は文章全体を通して「自然保護」を教え込むよりも「興味・魅力」を感じとらせ、触れたり採ったりすることを認めてやるべきだ、という考えを述べていた。直後の「精神」という表現へのつながりにも注意しよう。

7 本文の記述と各選択肢を照合する。イ、ウは二段落以降、エは「自然観察会で：どこに無理があるか」から始まる段落から、それぞれ文章中で筆者によって疑問を提示され、最終的に否定されていた。

⑥

1 傍線部を含む一文を読むと「見慣れぬマンションに驚いた」のは子猫だとわかる。そこから子猫が朝世たちのマンションにやってきたばかりだということが読み取れる部分をたどればよい。朝世と獣医のやりとりの中で、獣医からの質問に対して朝世が「おととい友人の友人からもらってきたばかりなんです」と返答していた。

2 直後の「さぞ淋しい思いをしていることだろう」が、朝世の想像している内容をつかむための大きな手がかりとなる。

3 物語文では心情が読み取れる行動、言動、態度には細心の注意を払って読み進めたい。aは問2とも関わりが深い。直前に「心配」と明記されているため容易であろう。bは朝世から子猫の様子を聞かされ、自宅では(朝世だけでは)対処できないと判断した際の俊樹の心情である。直後の動物病院に行くようにという指示からも、子猫の容態を慮りつつ朝世に的確な指示を出すために身構えている俊樹の様子がイメージできる。cは俊樹からの指示、および激励を受け、不安を抑えつけて子猫のために行動しようとする朝世の心情である。

4 診断を進めた獣医が、朝世に子猫の「心臓の欠陥」について説明している部分をたどる。「ちいさな穴」は指定字数と合わないため、同意表現をねばり強くさがしてほしい。

5 空らんに入る表現そのものを答えるのではないことに注意しよう。「獣医からの質問」は「この数日激しい運動をしなかったですか」なので、「この数日」、「激しい運動」の二点を手がかりにして具体的な描写がなされた部分をさがす。なお、原文には「土日は俊樹と朝世とマンションのそこかしこを転げまわって遊んでいた」と書かれていた。

6 Aは説明途中で動物病院に到着した俊樹が、獣医に対して子猫の容態を尋ねているためが入る。Bは直後で獣医が「手術費用をこたえ」ているためエが入る。Cは獣医の「明日お電話ください」に対しての発言であり、直後でも獣医が「はい。：すぐに始めて……」と答えているためウが入る。Dは獣医の手術の説明を受けての俊樹の発言であり、その後納得して話を終え病院から出ようとするところからアが入る。

以上